



ACCESS

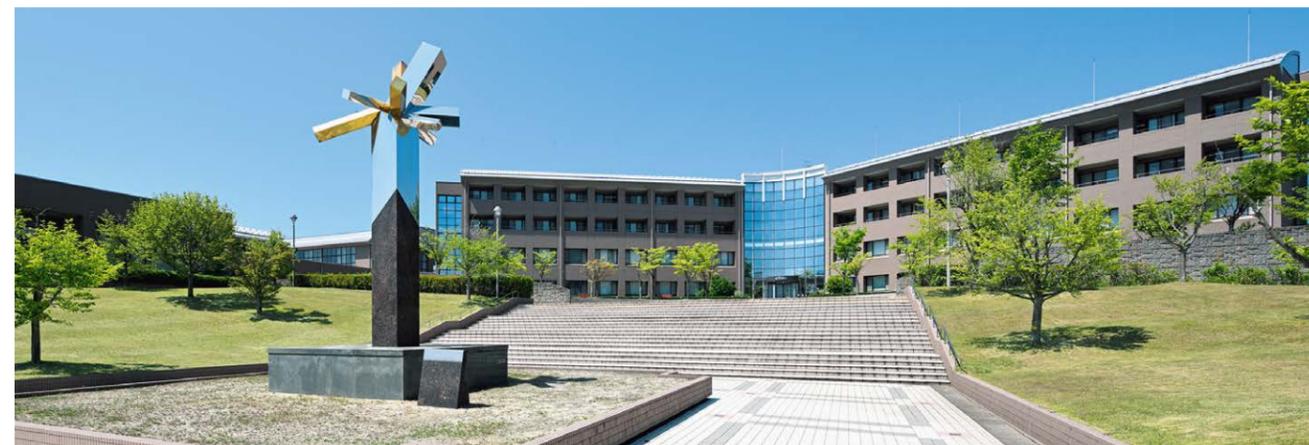
■ 公共の交通機関で

- ◎ JR高松駅から市営バスに乗り「看護大学・看護大学前」下車／約5分
- ◎ JR金沢駅からIRいしかわ鉄道・JR七尾線で、高松駅下車／約30分
- ◎ JR七尾駅から七尾線で高松駅下車／約50分

■ 車で

- ◎ 金沢森本ICからのと里山自動車道へ、県立看護大IC下車／約25分
- ◎ 小松空港から北陸自動車道小松ICへ、
金沢森本ICで降り、のと里山自動車道へ、県立看護大IC下車／約1時間
- ◎ のと里山空港からのと里山自動車道へ、県立看護大IC下車／約1時間

Google Mapはこちら ▶



石川県公立大学法人
石川県立看護大学 ■ 大学院

〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地

TEL 076-281-8300(代) FAX 076-281-8319

E-mail: office@ishikawa-nu.ac.jp <https://www.ishikawa-nu.ac.jp>



2026

大学院案内

GRADUATE SCHOOL

大学院 | 看護学研究科

石川県公立大学法人

石川県立看護大学

ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY



未来を、 看る。

変化の激しい現代では、
確かな選択なんてものは無い。
だからこそ私たちは学び、
備えなければならない。
その学びが、その備えが、いつかきつと
あなたの目の前のひとりを救い、
あなた自身のキャリアを築き、
社会の未来を照らすはずだから。

本学は「災害に強い大学になる」ための取り組みの一環として
令和7年度から **石川県寄附講座 災害実践看護学** を
新設しました。

次世代の看護学を創造する 大学院生へ

石川県立看護大学 **学長** 真田 弘美 (東京大学名誉教授)
Sanada Hiromi

能登半島地震、豪雨で学んだ 災害実践看護学研究の必要性

当大学は、1000年に一度の能登半島地震を最も間近で経験した看護大学です。^{※1}被災された皆様にお見舞いを申し上げるとともに、災害に強い大学になることへの使命感を強く感じております。その根底にあるフィロソフィーは命の尊さであり、それは何物にも代えがたく、看護学の神髄と言えます。

一方、Nursing is an art based on science(Florence Nightingale)、といわれるように、看護学は科学を基盤としている実践科学です。2040年の未来予測によると、これからの15年間は超高齢社会への医療・福祉対策は最も逼迫した課題となっていきます。それに加え、災害は毎年必ず起こってきます。

災害看護学は、すでにどの大学でもカリキュラムには導入されており、災害専門看護師が本邦の大学院で40人以上育てています。しかし、今回の災害を経験し強く思ったことは、被災地に過ごす方々の体と心の安定は保たれているのかという疑問でした。要支援者の避難所でのケアは災害関連死に直結します。そのために災害看護学への科学的なアプローチ、つまり研究が必須と考えました。そこで、災害実践看護を学部で学び、新しい災害看護学をエビデンスで確立する大学院を同時に開設しました。^{※2}そして今後も被災地に寄り添い、震災からの復旧及び支援に、学生、教職員とともに災害に強い大学になることに全力を尽くします。

無いなら創る、いないなら育てる

今後は人と先端技術が共生し、一人ひとりの生き方を共に支えるイノベーションが要求されています。その中で看護学では、個々人の幸福寿命に向けた理論・技術の開発が必要となります。

当大学院は、石川県のみならず、All Japanとして、他県、他国の院生を迎えることができるシステムとなっています。さらに看護の資格を問いません。つまり、このダイバーシティの環境の中、どこからでも院生を仲間として迎え、幸福寿命についてのディスカッションを繰り返し、教員共々成長することを楽しみにしています。

このようなディスカッションができるためには、**博士前期課程**では、多くの論文を読んで、ロジカルシンキングだけでなく、クリティカルシンキングを学び、次世代の看護学にどのような理論や技術が必要か明らかにしましょう。これは、高度看護実践者としての助産師にも必須な要件です。そして、**博士後期課程**では、その新たな理論の構築のための基礎研究、または技術の開発などの応用研究、それを現場に届けるための実装研究など、様々な学際的な研究を学び、あなたにしかできない独創的な研究を当大学院で実行し、必ず論文にしましょう。療養者のニーズにこたえるべき**看護学に必要な理論、技術、機器を創造し、実装できる人材が育つこと**、それが当大学の大学院生への期待です。

産学連携研究の醍醐味を味わってほしい

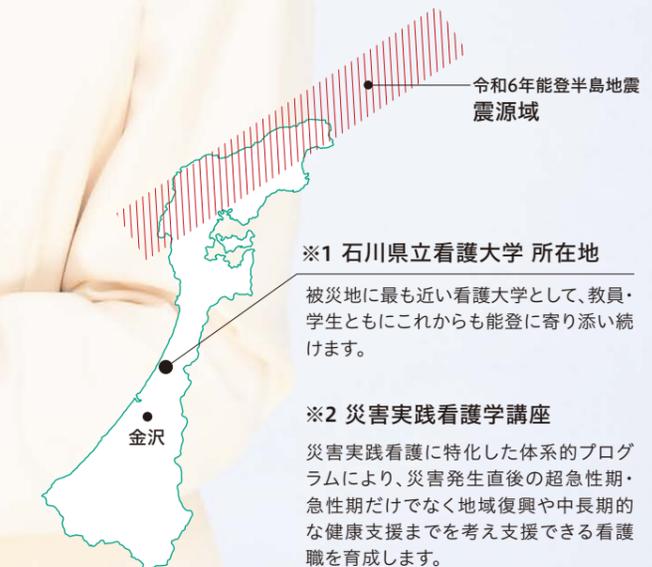
従来の当大学でのユニークな研究に加え、たとえば今回の能登半島地震で学んだ過疎・超高齢者居住地域における支援モデルの構築のために、グローバルな立ち位置で、DXを取り入れ、遠隔からでも医療を提供できる看護のシステムや理論・技術を創造する産学連携研究も積極的に行います。

企業のもつノウハウを知り、次世代の看護を探究するための研究を、教員並びに企業の方々と共に当大学院で体験してみませんか。

そして、我々はその先にある**未来を看ましよう**。

真田 弘美 学長 Profile

- 石川県金沢市出身
- 聖路加看護大学卒業 医学博士
- 米国イリノイ大学大学院留学研修
- 東京大学健康科学・看護学専攻長、学科長、グローバルナursingセンター センター長を経て2022年4月より現職
- 元日本看護科学学会理事長、元日本褥瘡学会理事長、元日本創傷・オストミー・失禁看護管理学会理事長、元日本看護協会副会長



※1 石川県立看護大学 所在地
被災地に最も近い看護大学として、教員・学生とともにこれからも能登に寄り添い続けます。

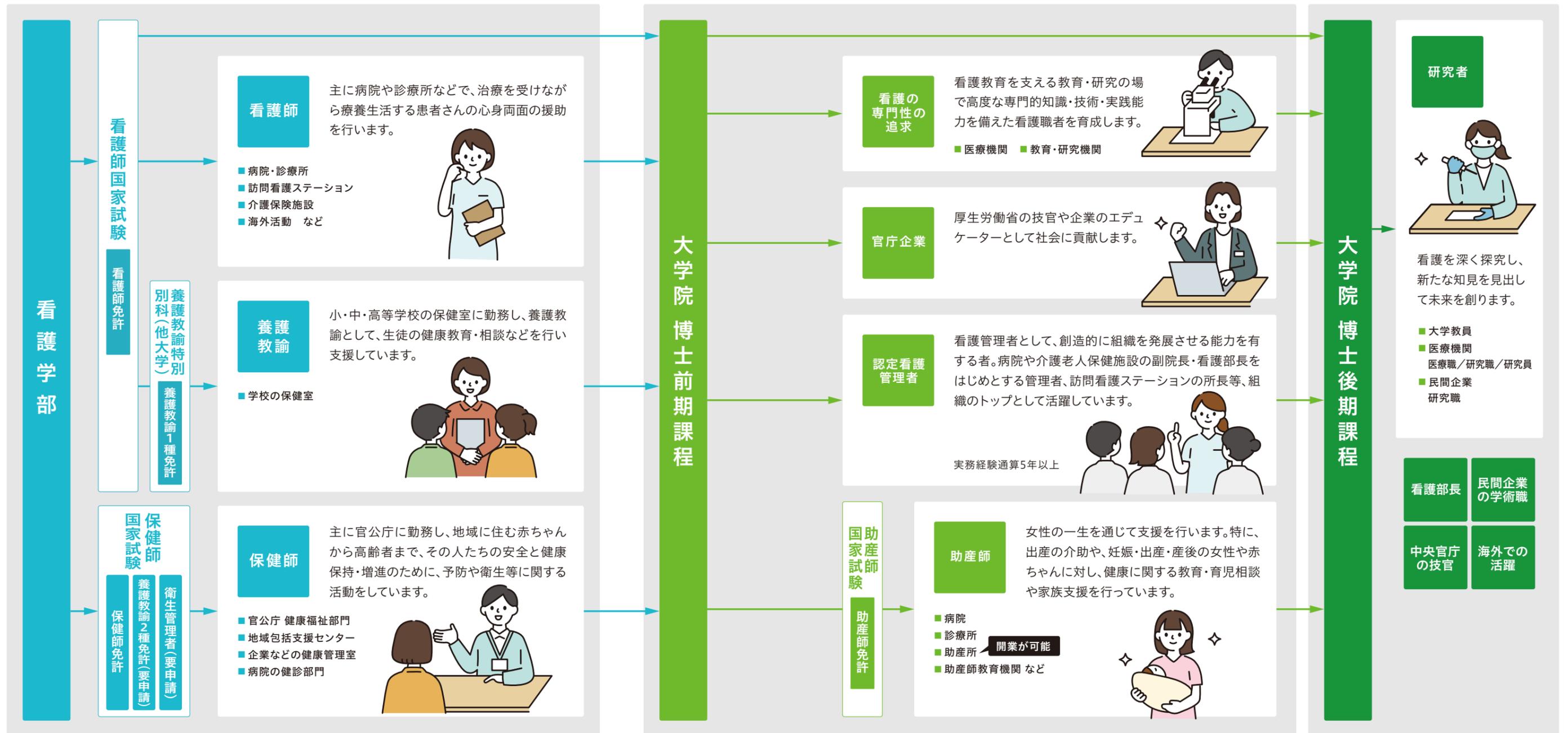
※2 災害実践看護学講座
災害実践看護に特化した体系的プログラムにより、災害発生直後の超急性期・急性期だけでなく地域復興や中長期的な健康支援までを考え支援できる看護職を育成します。

学長メッセージ	03	大学院カリキュラム	13	エデュケーショナル・フィロソフィー	18
看護のキャリアステップ	05	研究教育分野の紹介	15	アドミッション・ポリシー	
大学院を修了し、活躍している先輩たち	07	キャンパスマップ	16	カリキュラム・ポリシー	
大学院の概要・構成	09	入試情報/入学金および授業料など	17	ディプロマ・ポリシー	
研究指導教員と研究テーマ	11			研究科長メッセージ	18



看護のキャリアステップ

社会のニーズの高まりから看護職の可能性はどんどん広がり、臨床の現場で働くことはもちろん、教育や研究の道で活躍する道もあります。キャリアを重ねた後に、新たな高みを目指して、大学院へ進学する方もたくさんいます。新たな道へチャレンジする場を本学は提供します。



大学院修了生の進路

大学院創設以来、充実した指導体制のもとで修了者は大学院で身につけた幅広い見識と自身の専門性を活かし、本学内外の大学院へ進学のほか、それぞれの専門領域に関連する多種多様な職種で活躍中です。

主な進路(令和7年3月現在)

[修士課程・博士課程修了生(平成30年度～令和6年度)]

大学:教員

石川県立看護大学、福井県立大学、金沢医科大学、公立小松大学、島根県立大学、兵庫県園田学園女子大学、福岡国際福祉医療大学 など

行政機関:医療職、保健師等

石川県、岐阜県 など

民間企業等:保健師

PFU

医療・研究機関:医療職、研究員

金沢大学附属病院、富山大学附属病院、石川県立中央病院、金沢医療センター、金沢医科大学病院、国立病院機構七尾病院、金沢市立病院、福井県済生会病院、東京医科歯科大学、杏林大学医学部付属病院、横浜市立大学附属病院、国立成育医療研究センター、大阪大学附属病院、大阪医科薬科大学病院、名古屋大学医学部附属病院、富山県立中央病院、石川県立看護大学 など

大学院を修了し、活躍している先輩たち

本学の大学院を修了し、教育や臨床の現場で活躍している先輩に、大学院での学びや現在のお仕事などについて、お聞きしました。

病院 看護師



持続可能な組織であり続けるために 次世代の管理者育成や働きやすい 職場づくりを

金沢医科大学病院 病院企画室 部長 中村 真寿美さん

博士前期課程 看護管理学分野 修了



大学病院の経営戦略部門で病院運営に携わっています。看護部長時代は、明確な目標を掲げ、確実に成果を上げるための仕組みを構築してきました。この経験をベースに、未来創造的な医療機関として発展できるように病院事業計画の策定や新たな組織戦略の構築に取り組んでいます。

大学院に進んだきっかけは、主任として様々な課題に直面し、右往左往したからです。ファーストレベル研修を通じてマネジメントにも看護実践と同様に基本や理論があることを知り、それらを体系的に学ぶ必要性を感じました。そこで、本学の看護管理学分野に

進学し、組織運営の基礎を学びました。振り返ると、職業人生の中で組織マネジメントを学ぶタイミングと場、そして人との縁に恵まれたと感じています。

私のマネジメントテーマは、「柔軟で強い組織力」です。医療・看護を取り巻く環境は劇的に変化し続けており、持続可能な組織として成長し続けるために、これからも医療・看護の質の向上、病院全体の次世代管理者育成、そして働きやすい職場づくりに尽力していきたいと考えています。

看護師

精神科看護の現場から大学院へ — 社会資源の役割を問い直す

石川県立こころの病院
宮田 広成さん

博士前期課程 地域・精神・保健学分野 修了



私は精神科病院で看護師長として、スタッフが働きやすい環境づくりや、入院患者の療養環境の改善に取り組んでいます。多職種と連携し、患者がより良い形で退院できるよう支えています。コロナ禍では、社会資源の利用が制限され、地域で生活していた精神疾患のある人々の再入院が急増しました。その経験から「社会資源は、精神疾患を抱える人々の地域生活を本当に支えているのか？」という疑問を持ちました。特に関心を持ったのは、アルコール依存症患者の自助グループです。コロナ禍以前から自助グループの減少が進んでおり、この動向は患者の回復過程にどのような影響を与えているのか—この課題を解明するため、私は大学院へ進学しました。指導教員や専門家の助言を受けながら、実践を学術的に再考し、新たな支援の方向性を見出しました。また、他分野の院生との交流を通じて、視野も広がりました。大学院への進学は、現場での疑問を深く追究し、解決策を生み出す貴重な機会です。精神科看護の未来を切り拓くために、研究の力をぜひ活かしていけたらと思います。

大学院生

臨床で得た課題意識を大切に、 在宅療養者への支援のあり方を 研究する

石川県立看護大学大学院博士後期課程
立川 啓太さん

博士前期課程 ~2021年度修了



本学博士前期課程修了後、石川県内の急性期病院の集中治療室に勤務し、重篤な患者さんのケアに携わってきました。救急搬送されてくる患者さんの中には独居高齢者も多く、発見の遅れによって病状が悪化し、長期入院や退院後の生活に大きな支障をきたすケースも少なくありませんでした。こうした現状に向き合う中で、これからの超高齢社会において、在宅療養者が住み慣れた地域で尊厳を保ちながら最期まで過せる支援のあり方を追究したいと強く思うようになりました。その思いを実現するため、産学連携の共同研究講座「ウェルビーイング看護学」および「看護理工学」が設置されている本学大学院に進学し、博士後期課程実践看護科学分野で、在宅療養者の生活を支える医療・介護ニーズに対し、工学的視点からアプローチする研究に取り組んでいます。臨床での経験を原点とした課題意識を大切にしながら、未来の看護を創造する一助となれるよう、研究を行っていきます。

助産師



産婦さん自身の お産の体験を尊重し 適切なサポートを心がけています

医療法人社団 あらきクリニック 新谷 里沙子さん

博士前期課程 助産看護学分野 修了



助産師として、安全な妊娠生活を維持できるように入院中の妊婦さんのケアや分娩介助、産婦さんの心身のケア、新生児のお世話、授乳や育児の介助を担当しています。

助産師になるためには専門学校で学ぶ方法もありますが、大学院では他分野の経験豊富な先輩方と学ぶことができます。そのため、助産師としてだけでなく看護師として働く上でもより貴重な体験ができると考えて大学院に進学しました。

大学院の学びでは、開業助産師として活躍されている先生の

「お産の主体は産婦さんであり、助産師主体ではない」との言葉が印象的でした。産婦さんには自分が動きたいように動いてもらって、それをサポートする。あくまでも産婦さん自身のお産の体験を尊重してあげることが大切だということを学びました。母と子の安全を第一とした適切な援助ができること、産婦さんが自分のお産を良かったと認め、自宅に帰ってからも自信を持って育児ができるような関わりを心がけています。

大学教員



母校で「学びのバトン」を つないでいきたい

石川県立看護大学 教授 米澤 洋美さん

博士後期課程 コミュニティケア・看護デザイン科学分野 修了



大学教員になって17年目になりますが、縁あって2022年度より母校である本学で教員をさせていただいております。大学院生の頃にお世話になった先生方からお預かりした「学びのバトン」を、この後に続く後輩に確実につないでいきたいという思いがあります。教員になりたいと強く思ったのは保健師として働いていた時、国立保健医療科学院の研究員としてライセンスをとった後の現任教育に携わる経験をしたことがきっかけです。看護の基礎教育を経て、ライセンスをとったのちも学び続けるその熱意

や年代も所属も超えた横のつながりに深く感銘を受けました。今、学部生と卒業研究に取り組む時には、どんなに小さなことでも疑問が解決することの楽しさを大事にしています。そして、またいつの日か、大学院生として母校に戻り、研究に取り組んでもらいたいとおもいつつエールを送る日々です。

大学院

看護学研究科

高度な専門的知識・技術・実践能力をもつ看護職者、看護学や看護実践をリードする教育者・研究者の育成

大学院看護学研究科では、博士前期課程と博士後期課程を設置しています。

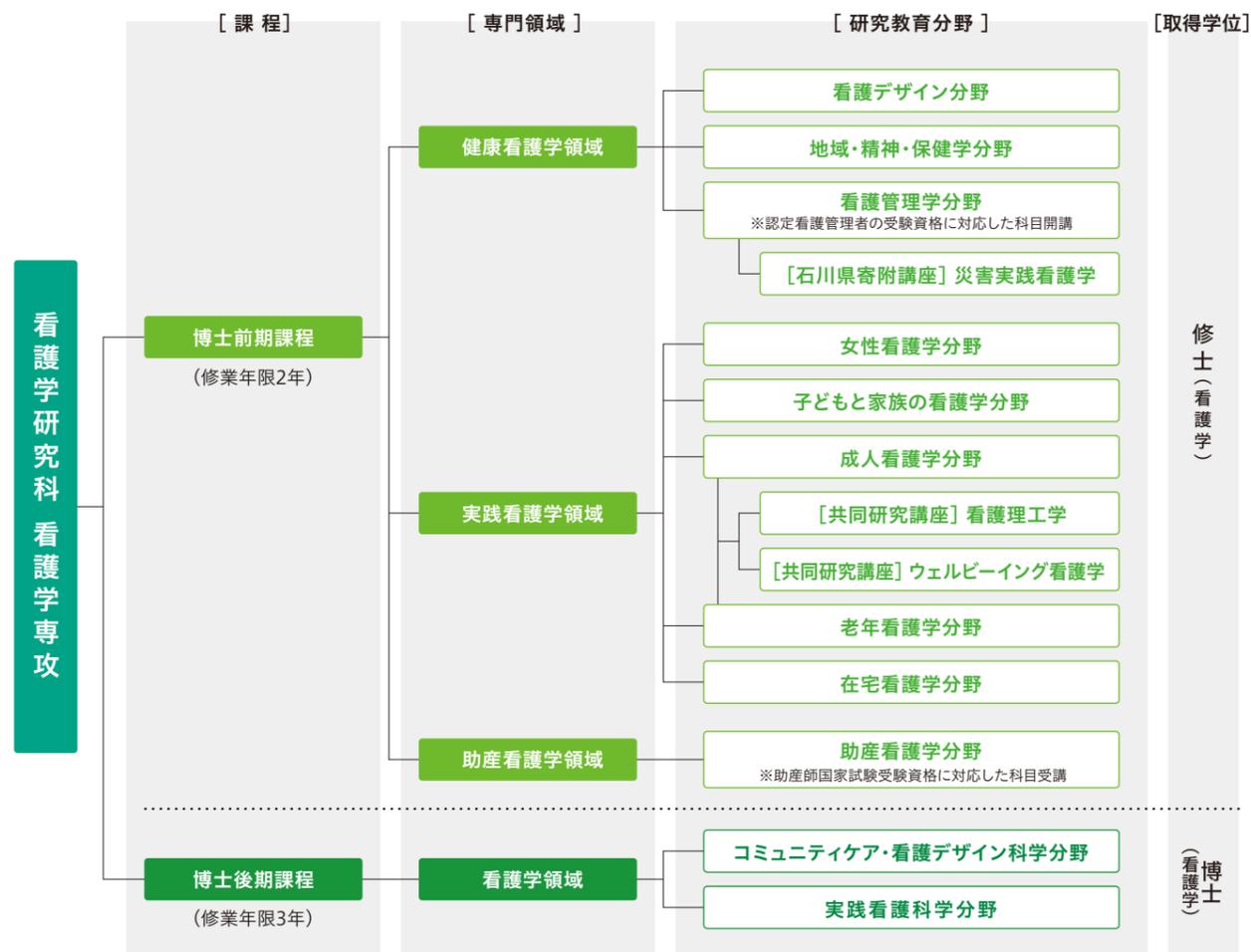
博士前期課程では、看護教育を支える教育・研究の場で、高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた

看護職者を育成します。博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者を育成します。



■ 大学院の構成

石川県立看護大学大学院看護学研究科には、博士前期課程(修士)と博士後期課程(博士)があります。博士前期課程は健康看護学領域、実践看護学領域、助産看護学領域の3領域で構成され、さらに専門の分野に分けられています。



POINT

社会人の就学に関する特別措置

■ 教育方法の特例

大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第14条では、夜間その他の特定の時間または時期において授業や研究指導を行うことができる道が開かれており、本学大学院では、社会人の就学のため、在職のまま在学することを認めています。

■ 長期履修制度

大学院設置基準(昭和49年文部省令第28号)第15条は、職業を有している等の事情により標準修業年限での履修が困難な者に対して、標準修業年限を越えて一定の期間にわたり計画的に履修を認める制度で、本学大学院では、平成22年度から導入しています。

※これらの特別措置を希望する方は、志望する看護学領域の教員にご相談ください。

助産師への道

「助産師」は厚生労働大臣の免許を受けて、助産又は妊婦、じよく婦、もしくは新生児の保健指導を行うことを業とする女子をいいます。母子のみならず、女性の生涯における性と生殖にかかわる健康相談や教育活動を通して家族や地域社会に広く貢献できる人材であり、その活動は育児支援やウィメンズヘルスケア活動を包含します。また、助産師は開業権を有し自身で開業することができます。

助産師になるには…

助産師になるには助産師国家試験及び看護師国家試験に合格することが必要です。日本では様々な助産師養成課程があり、2年間で学ぶ大学院や1年間で学ぶ専攻科、大学別科、専修学校などがあります。本学では、助産師養成課程を大学院博士前期課程に設置し、助産師国家試験受験資格と修士の学位取得をめざすコースとなっています。

認定看護管理者への道

「認定看護管理者」は多様なヘルスケアニーズを持つ個人・家族・地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、看護管理者の資質と看護の水準の維持および向上に寄与することにより、保健・医療・福祉に貢献できる人材です。

認定看護管理者になるには…

看護師免許を取得後、通算5年以上の実務経験があり、そのうち通算3年以上は師長相当以上の看護管理経験があり、下記の要件を満たす者が認定審査を受けることができます。①「看護管理学分野」を専攻し修士号を取得している。②修士論文において看護管理に関連する学問領域の研究である。

■ 研究指導教員と研究テーマ

上段●: 博士前期課程の研究教育分野
下段●: 博士後期課程の研究教育分野

詳細情報はこちらへ 研究者情報 研究シーズ集



健康看護学領域

●看護デザイン分野
●コミュニティケア
●看護デザイン科学分野



教授 **小林 宏光**
kobayasi@ishikawa-nu.ac.jp

- 療養環境の人間工学的研究
- 心理的刺激に対する生理反応の研究
- 生理機能・身体機能の測定を用いた看護技術評価の実験的研究
- 歩行・睡眠・自律神経機能など高齢者の身体特性の研究

●看護デザイン分野
●コミュニティケア
●看護デザイン科学分野



教授 **垣花 渉**
kakahana@ishikawa-nu.ac.jp

- 健康の維持・増進を図る体力科学研究
- コンピテンシーを育成する教育実践に関する研究

●看護デザイン分野
●コミュニティケア
●看護デザイン科学分野



准教授 **松田 幸久**
ymatsuda@ishikawa-nu.ac.jp

- ヒトの認知機能についての実験心理学的研究とその応用
- 脳構造に着目した認知機能および精神疾患特異性についての計算論的神経科学

●地域・精神・保健学分野
●コミュニティケア
●看護デザイン科学分野



教授 **米澤 洋美**
h-yonezawa@ishikawa-nu.ac.jp

- 住民参加型の健康づくりに関する研究
- 行政保健師の現任教育に関する研究

●地域・精神・保健学分野
●コミュニティケア
●看護デザイン科学分野



教授 **今井 秀樹**
imahide@ishikawa-nu.ac.jp

- ヒト集団を対象とした人類生態学的研究
- わが国の疾病構造に関する疫学的研究

●地域・精神・保健学分野
●コミュニティケア
●看護デザイン科学分野



教授 **美濃 由紀子**
mino-pn@ishikawa-nu.ac.jp

- 他害行為を行った精神障がい者の評価、治療、社会復帰支援に関する研究
- 精神科身体合併症看護に関する研究

●地域・精神・保健学分野
●コミュニティケア
●看護デザイン科学分野



准教授 **大江 真吾**
ohe1111@ishikawa-nu.ac.jp

- 自閉スペクトラム症への看護ケアに関する研究
- 精神障害者の社会復帰、農福連携に関する研究

●看護管理学分野
●コミュニティケア
●看護デザイン科学分野



教授 **石川 倫子**
ishi1995@ishikawa-nu.ac.jp

- 看護師のキャリア形成・発達に関する研究
- 看護師の看護実践能力向上を目指した教育のあり方に関する研究

●看護管理学分野
●コミュニティケア
●看護デザイン科学分野



石川県寄附講座災害実践看護学教授
教授 **木田 亮平**
rkida@ishikawa-nu.ac.jp

- 持続可能な看護組織運営・看護提供に関する定量的研究
- 健康的な職場環境に関する定量的研究
- 医療チーム・組織づくりに関する研究

助産看護学領域

●女性看護学分野
●助産看護学分野
●実践看護科学分野



教授 **亀田 幸枝**
ykameda@ishikawa-nu.ac.jp

- プレコンセプションケアの推進に関する研究
- 出産前教育の効果や測定用具に関する研究
- 助産師教育に関する研究
- ※実践看護学領域女性看護学分野 兼任

実践看護学領域

●女性看護学分野
●助産看護学分野
●実践看護科学分野



教授 **米田 昌代**
masayo@ishikawa-nu.ac.jp

- グリーフケアに関する研究 (主に周産期の死:流産・死産・新生児死亡を対象)
- 助産師並びに女性とその家族に関わる専門職の専門的ケアに関する研究
- ※助産看護学領域助産看護学分野 兼任

●子どもと家族の看護学分野
●実践看護科学分野



教授 **戸部 浩美**
tobejc@ishikawa-nu.ac.jp

- 家族のレジリエンス
- 虐待・マルトリートメント予防
- 家族のためのマインドフルネス
- 養育態度

●子どもと家族の看護学分野
●実践看護科学分野



准教授 **千原 裕香**
chihayu@ishikawa-nu.ac.jp

- 親になる前の若者に対する子ども虐待予防教育に関する研究
- マルトリートメント予防や子育て支援に関する研究

●成人看護学分野
●実践看護科学分野



教授 **紺家 千津子**
cknya@ishikawa-nu.ac.jp

- 創傷、皮膚障害に対するケア技術開発に関する研究
- 創傷・スキンケア看護における遠隔支援に関する研究

●成人看護学分野
●実践看護科学分野



教授 **今井 美和**
miwaimai@ishikawa-nu.ac.jp

- がんの予防に関する研究
- 感染症の予防に関する研究

●成人看護学分野
●実践看護科学分野



教授 **平居 貴生**
thirai@ishikawa-nu.ac.jp

- 生活習慣病予防に関する時間生物学的研究
- 骨代謝と栄養に関する研究

●成人看護学分野
●実践看護科学分野



教授 **峰松 健夫**
takeom@ishikawa-nu.ac.jp

- 皮膚をみる:非侵襲的スキンアセスメント技術の開発
- 皮膚を守る:統合的スキンケア技術の開発
- 皮膚からみる:皮膚をインターフェースとした病態アセスメント技術の開発

●成人看護学分野
●実践看護科学分野



教授 **臺 美佐子**
daim000@ishikawa-nu.ac.jp

- がん患者のスキンケアに関する研究
- リンパ浮腫のアセスメント方法の開発研究
- リンパ浮腫の遠隔ケアシステム開発研究

●成人看護学分野
●実践看護科学分野



准教授 **松本 智里**
chima23@ishikawa-nu.ac.jp

- がん患者のピアプランニングに関する研究

●老年看護学分野
●成人看護学分野
●実践看護科学分野



共同研究講座ウェルビーイング看護学教授
教授 **松本 勝**
matumoto@ishikawa-nu.ac.jp

- 在宅療養高齢者の幸福寿命延伸を目指したロボティックケア開発に関する研究
- 座位での身体状態のモニタリング手法の開発
- 超音波検査(エコー)を用いたフィジカルアセスメントに関する研究(排泄等)
- ICTやMR技術を活用した訪問看護の遠隔支援に関する研究

●成人看護学分野
●老年看護学分野
●実践看護科学分野



共同研究講座看護理工学教授
教授 **大貝 和裕**
ogaikzhr@ishikawa-nu.ac.jp

- 創傷の発生・再発における細菌叢の関与の解明と是正法の開発
- スキンプロットの網羅的検査法の開発と応用
- MicroRNAを標的にした創傷アセスメント技術の開発と応用

●成人看護学分野
●老年看護学分野
●実践看護科学分野



共同研究講座看護理工学准教授
教授 **長谷川 陽子**
haseyoko@ishikawa-nu.ac.jp

- スキンプロットング法を用いた非侵襲的栄養評価法の開発と在宅栄養管理への応用

●老年看護学分野
●実践看護科学分野



教授 **真田 弘美**
sanadah@ishikawa-nu.ac.jp

- 高齢者の看護に必要な技術機器開発
- DXと創傷ケア

●老年看護学分野
●実践看護科学分野



教授 **岩佐 和夫**
kkiwasa@ishikawa-nu.ac.jp

- 神経疾病に関する研究
- 口腔機能に関する研究

●老年看護学分野
●実践看護科学分野



教授 **北村 言**
kitamura@ishikawa-nu.ac.jp

- 褥瘡のアセスメント、ケア技術に関する研究
- 高齢者の在宅療養支援に関する研究

●老年看護学分野
●実践看護科学分野



准教授 **中道 淳子**
junkoh@ishikawa-nu.ac.jp

- 認知症高齢者のケアに関する研究
- 認知症の人が希望を持って暮らせる共生社会の実現に関する研究

●在宅看護学分野
●実践看護科学分野



教授 **桜井 志保美**
sakurai@ishikawa-nu.ac.jp

- 家族介護者の健康支援に関する研究
- 施設で働く介護者のストレスマネジメントに関する研究

■ 大学院カリキュラム

博士前期課程カリキュラム

[共通科目]

看護分野の基礎となる看護科学論と看護研究を必修科目として配置。広い視野と知識を持ち、人間性豊かな看護を実践するための基礎科目、より深い研究に対応できる能力を養成するための科目を選択科目として配しています。修士論文作成のための特別研究も必修です。

共通A	
[授業科目]	[単位数]
●看護科学と看護理論	2
●看護研究	2
○データ分析方法論	2
○コンサルテーション論	2
○ケアと哲学	2
○看護教育特論	2

共通B	
[授業科目]	[単位数]
○臨床薬理学	2
○アドバンス フィジカルアセスメント	2
○病態生理学	2
●特別研究	6

●必修 ○選択

[専門科目]

健康看護学領域

あらゆる健康レベルの人とその家族に対する総合的ヘルスケアのデザインを目的に、その理論・方法・実践能力・管理能力を養います。

■ 看護デザイン分野

[授業科目]	[単位数]	[授業科目]	[単位数]
看護デザイン論	2	看護デザイン演習Ⅰ	2
看護デザイン特論Ⅰ	2	看護デザイン演習Ⅱ	2
看護デザイン特論Ⅱ	2		

■ 地域・精神・保健学分野

[授業科目]	[単位数]	[授業科目]	[単位数]
地域看護学研究特論	1	精神保健看護学特論Ⅰ	2
地域看護学特論	2	精神保健看護学特論Ⅱ	2
地域看護診断・展開特論	2	精神保健看護学演習Ⅰ	2
地域看護診断・展開演習	2	精神保健看護学演習Ⅱ	2
地域看護管理特論	1		
地域ケアシステム開発論	2		

■ 看護管理学分野

[授業科目]	[単位数]	[授業科目]	[単位数]
看護組織論	2	看護管理演習	4
人的資源活用論	2	看護管理実習	2
看護経済・経営論	2		

助産看護学領域

■ 助産看護学分野

「助産師国家試験」の受験資格に対応した科目開講

[授業科目]	[単位数]	[授業科目]	[単位数]
助産学概論	1	助産診断・技術特論	3
健康教育演習	3	演習Ⅳ(ハイリスク)	
助産診断・技術特論演習Ⅰ (概論・妊娠)	3	助産管理特論	2
助産診断・技術特論演習Ⅱ (分娩期)	4	地域母子保健特論	2
助産診断・技術特論演習Ⅲ (産褥期・新生児期・乳幼児期)	2	助産実践実習Ⅰ-1 (正常・継続)	5
		助産実践実習Ⅰ-2 (正常)	3
		助産実践実習Ⅱ (ハイリスク・継続)	2
		助産管理実習	2

博士前期課程(修士) 修了認定基準

- 修了に必要な修得単位数…本研究科博士前期課程に2年以上在籍し、共通科目14単位以上[必修10単位(特別研究6単位を含む)・選択4単位以上]、専門科目16単位以上、計30単位以上を修得しなければならない。
- その他の修了要件…修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。

博士後期課程カリキュラム

看護学領域

■ コミュニティケア・看護デザイン科学分野

あらゆる人々に対する、生活者としてのトータリティを重視したケアをデザインし、発展させることができる看護科学者の育成を目指します。

対象の生命力を高め、生活を支援するための療養環境や生活道具・設備のデザイン、看護プログラムのデザイン、看護提供環境の設計・管理のデザイン、ゼロ次予防から3次予防に至る保健・医療・福祉システムの社会的デザインとそれを裏付ける看護理論のデザイン等が含まれます。これらを効果的かつ科学的に進めるため、人文・社会・自然諸科学との学際的なアプローチを看護学の専門性と統合し、看護にかかわる現象の本質や看護実践の基となる原理の解明を重視します。

[授業科目]	[単位数]	[授業科目]	[単位数]
看護デザイン科学特論	2	コミュニティケア科学特論	2
看護デザイン科学演習A	4	コミュニティケア科学演習A	4
看護デザイン科学演習B	4	コミュニティケア科学演習B	4

博士後期課程(博士) 修了認定基準

- 修了に必要な修得単位数…本研究科博士後期課程に3年以上在籍し、特論科目2単位以上、演習科目8単位以上、計10単位以上を修得しなければならない。
- その他の修了要件…博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。

■ 実践看護科学分野

高度な研究能力と実践力を有する人材育成を目指す前期課程「実践看護学領域」を発展させた後期課程のカリキュラムです。

対象の特性および居住する場の特性などに対応した専門的看護実践を裏付ける看護学を構築できる看護科学者の育成を目指しています。そのために、保健・医療・福祉にまたがる複雑な健康課題・社会的課題に対して、対象および家族それぞれのライフスタイルや在宅から施設に至る居住の場に応じた看護プログラムの開発やその検証を行うなど、科学的に看護学を探究します。

[授業科目]	[単位数]	[授業科目]	[単位数]
子どもと家族・女性看護科学特論	2	高齢者看護科学特論	2
子どもと家族・女性看護科学演習A	4	高齢者看護科学演習A	4
子どもと家族・女性看護科学演習B	4	高齢者看護科学演習B	4
成人看護科学特論	2	在宅看護科学特論	2
成人看護科学演習A	4	在宅看護科学演習A	4
成人看護科学演習B	4	在宅看護科学演習B	4

大学院 Q&A 大学院への進学を検討されている方から、よく聞かれる質問と答えをまとめました。

Q 博士前期課程は、社会人が勤務しながら大学院の教育を受ける「教育方法の特例」措置を受けることができますか？

A 本学の大学院博士前期課程を専攻する大学院生は、「教育方法の特例」措置を受けることができます。「助産実践分野」は、「教育方法の特例」措置は原則認められていません。これは、講義や演習だけでなく、医療機関で10週間に及ぶ実習の履修があり、勤務しながらの学業が非常にむずかしいためです。

Q 博士前期課程は働きながら2年で修了することができますか？

A 2年(標準修業年数)で博士前期課程の修了要件を満たすことができます。ただし、2年間を超えて履修し修了を目指す長期履修制度も利用できます(P10)。

Q 「教育方法の特例」措置(P10)を受けて、社会人として就業しながら大学院で学びたいのですが、時間割はどのようになっていますか？

A 就業しながら大学院の講義を受講できるように、講義は夜間(主に18時から21時)や土曜日に行われます。したがって社会人「教育方法の特例」措置をうける大学院生は、それに合わせた就業や学業のスタイルを工夫しています。

博士前期課程「助産看護学分野」と「看護管理学分野」の時間割

博士前期課程「助産看護学分野」(令和5年度前期) 平日の日中受講の場合
博士前期課程「看護管理学分野」(令和5年度前期) 夜間・土曜日受講の場合 ※社会人(「教育法の特例」措置による)

	1時限 (9:00~10:30)	2時限 (10:40~12:10)	3時限 (13:00~14:30)	4時限 (14:40~16:10)	5時限 (16:20~17:50)	6時限 (18:00~19:30)	7時限 (19:40~21:10)
月	アドバンスフィジカルアセスメント			助産診断・技術特論演習Ⅰ			
火	助産学概論		臨床薬理学				
水				看護研究		看護管理特論	
木			助産診断・技術特論演習Ⅱ			看護研究	
金	看護科学と看護理論			助産診断・技術特論演習Ⅲ		看護教育特論	コンサルテーション論
土	看護科学と看護理論		看護組織論または人的資源活用論				

■ 研究教育分野の紹介



看護管理学分野

健康看護学領域の看護管理学分野では、多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族および地域住民に対して質の高い組織的看護サービスを提供するために、保健・医療・福祉の変化に応じた看護サービスの質を保証するためのヘルスケアシステムを改革・創造できる看護実践者の育成を目指しています。また、職位に関わらずリーダーシップスキル、マネジメントスキルを發揮し、看護組織の掲げる様々なレベルの目標を達成できる人材の育成も目指しています。皆さんと一緒に次世代の看護マネジメントの在り方を追究していきたいと考えています。

共同研究講座 ウェルビーイング看護学

共同研究講座ウェルビーイング看護学は、株式会社モルテンの出資のもと2024年度に開設されました。医療的ニーズをもちながらも在宅で療養する高齢者が寝たきりや座りきりの問題を回避しながら安全で快適な生活を送るためにはセンサ技術・ICTを活用したモニタリングや異常を早期発見するAIなどによる新しいホームケアシステムの確立が欠かせません。そこで本講座では、産学連携により在宅療養者の幸福寿命延伸、ウェルビーイングを実現するための医療機器・福祉用具の開発と実装を行っています。具体的には、高齢者が安全で快適に長時間座位をとれるためのシーティング条件の検討や座位での身体状態のモニタリング手法の開発、ケアリコメンテーションシステム、データベース構築、遠隔看護システムの構築に取り組んでいます。看護理工学



や産学連携、技術開発等に関心がある方、あるいはやりたいテーマは具体的になくても何か新しいことをやってみたいという方と一緒に研究ができればと思っています。年齢、性別、キャリアは問わず、一緒に研究できる大学院生を募集しています。

助産看護学分野

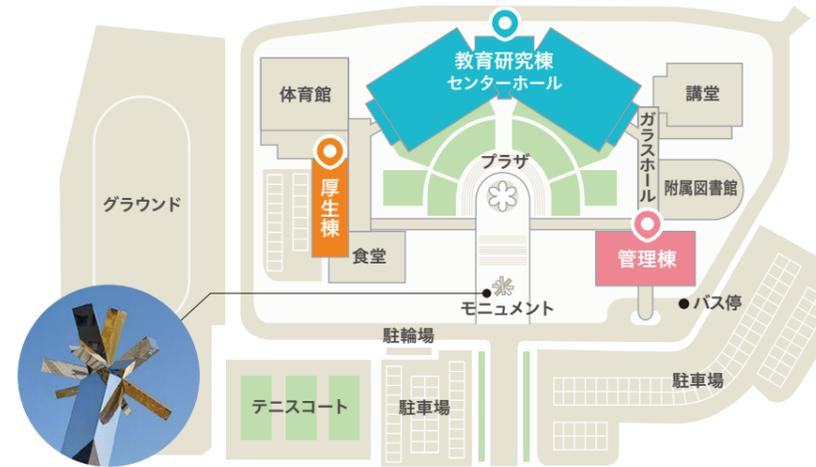
助産師国家試験受験資格と修士の学位取得をめざします。2年間のカリキュラムの中で、女性と新しい命、その家族に必要とされるケアを提供する力を身につけ、よりよい助産・看護に繋がる研究プロセスを学びます。女性の生き方や家族のニーズは多様で複雑化しています。健康な方をはじめ医療の力や社会のサポートが特に必要となるハイリスク母子への支援についても思考を深め、実践の場で学ぶ機会を設けています。授業や実習では、学習者のユニークな個性を大切に、学習者が自ら学ぶ姿勢を支えることを大切にしています。また、2年課程のため、1年次に実習や学習方法を先輩に相談できるのも心強いところです。ぜひ一緒に学びましょう！



IPNU

CAMPUS MAP

潮風が香る、丘陵のキャンパス。碧い海と緑に囲まれたのびやかな環境です。



■ガラスホール 管理棟と教育研究棟をつなぐ、光がふりそそぐ明るいホール。

教育研究棟

講義室、演習室、研究室などがある4階建ての建物で、学びの中心です。

- 1F-2F** ■講義室
■情報処理演習室
■語学演習室
■人間機能・病態学実験室
■看護学実習室
■看護スキルスラボ

- 3F-4F** ■演習室
■教員研究室
■大学院生室



■基礎看護学実習室
看護の基礎となる技術や看護者としての基本的な態度を学びます。



■地域・在宅・精神看護学実習室
浴室やベッド、トイレ等の居住スペースを備え、在宅看護の実践技術を習得します。



■看護スキルスラボ
最新鋭のデジタル機器を導入し、様々な症状をシミュレーションすることが可能。臨場感のある実習ができます。



■情報処理演習室
最新機器を備え、IT化が進む医療現場での情報処理能力を養います。



■講堂
ステージと450の客席を備え、式典や講演会、ミニコンサートなどが行われています。



■附属図書館
約6万冊の蔵書を誇る、大学の頭脳にふさわしい充実した図書館。看護の専門書や雑誌に加え、一般教養や語学関連の書籍も多く、地域の看護職者や県民に対する情報提供も行っていきます。館内には集中して自習できる「がんばルーム」を設置しています。



■附属図書館
約6万冊の蔵書を誇る、大学の頭脳にふさわしい充実した図書館。看護の専門書や雑誌に加え、一般教養や語学関連の書籍も多く、地域の看護職者や県民に対する情報提供も行っていきます。館内には集中して自習できる「がんばルーム」を設置しています。



■体育館

厚生棟

食堂や売店、サークル室など、学生生活を充実させるための設備があります。校舎西側は、広大なグラウンド、トレーニングジム完備の体育館、3面の屋外テニスコートが集まるアクティブゾーンです。

- 1F** ■食堂 ■進路情報コーナー
■売店 ■ラーニングcommons
■談話室

- 2F** ■和室
■サークル室
■シャワー室



■食堂
ガラス張りの明るい食堂はキャンパスのリラックス空間です。日替わりランチ450円や丼400円が人気です。



管理棟

教務学生課では、教務に関することおよび学生の生活全般の支援や福利厚生などを担当しています。学生生活や健康に関する相談、カウンセリングに利用できる施設や、公開講座・研究会などが行われる研修室があります。

- GF** ■事務局 (教務学生課・総務課)
■地域ケア総合センター
- 1F** ■保健室
■学生相談室
■研修室
■看護キャリア支援センター

■ 入試情報 入学金および授業料など

令和8年度 大学院入試情報

課程	入学定員	課程	入学定員
博士前期課程	15名(うち、助産看護学領域5名)	博士後期課程	3名

※出願期間、入学試験日程等の詳細は、入学者募集要項をご覧ください。



■ 令和7年度 入試結果

試験区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率
博士前期課程	第1次募集	10	11	10	10	1.0倍
博士前期課程 助産看護学領域	第1次募集	5	15	15	5	3.0倍
博士前期課程	第2次募集	—	—	—	—	—
合計		15	26	25	15	1.7倍

試験区分	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	実質倍率
博士後期課程	第1次募集	3	10	9	6	1.5倍
博士後期課程	第2次募集	—	—	—	—	—
合計		3	10	9	6	1.5倍

個別の入学資格審査

■ 博士前期課程 個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、受験する年度の3月31日までに24歳に達するものに受験資格を付与します。

■ 博士後期課程 個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者で、受験する年度の3月31日までに26歳に達するものに受験資格を付与します。

※個別の入学資格審査を希望する方は、本学教務学生課にご相談ください。

社会人の就学に関する特別措置(P10)

■ 教育方法の特例 ■ 長期履修制度

※これらの特別措置を希望する方は、志望する看護学領域の教員にご相談ください。

科目等履修について

本学大学院では科目毎に履修登録できる科目等履修生制度も用意しています。履修を希望される方は下記までご連絡ください。詳細は本学WEBをご覧ください。
TEL 076-281-8302 E-mail: kyo@ishikawa-nu.ac.jp

POINT

大学院入学者の選抜については、その詳細を学生募集要項により必ず確認してください。



本学教務学生課窓口以外にWEBおよびテレメールから請求できます。

本学に入学を志願する者で、障害を有するなど、受験上特別な措置および修学上特別な配慮を必要とする者は、出願の前にあらかじめ本学教務学生課まで連絡し、相談してください。

お問い合わせ先 事務局教務学生課 TEL 076-281-8302 FAX 076-281-8309 E-mail: nyushi@ishikawa-nu.ac.jp

■ 入学金および授業料など

入学検定手数料		30,000円	
入学手数料	石川県内者	282,000円	入学前年の4月1日から引き続き石川県内に住民票上の住所を有する者
	その他	423,000円	上記以外の者
授業料		年額535,800円	年2回分割納付
	前期納付期限	4月15日(※)	267,900円
	後期納付期限	10月30日	267,900円

(※)入学初年度のみ5月30日 令和7年4月1日現在

※経済的理由等により、授業料の納付が困難であると認められる学生については、授業料を減免されることがあります。

■ 奨学金

日本学生支援機構奨学金制度があります。詳細は本学WEBでご確認ください。

Educational Philosophy

教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中において、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

教育目標

■ 博士前期課程

1. 看護学教育を支える教育・研究職の育成

本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化・発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究職の人材を育成する。

2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

実践現場において直面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、高度な実践力をもつ看護職者の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与できる高度専門職業人を育成する。

3. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、適宜適切な社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

■ 博士後期課程

1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を発展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

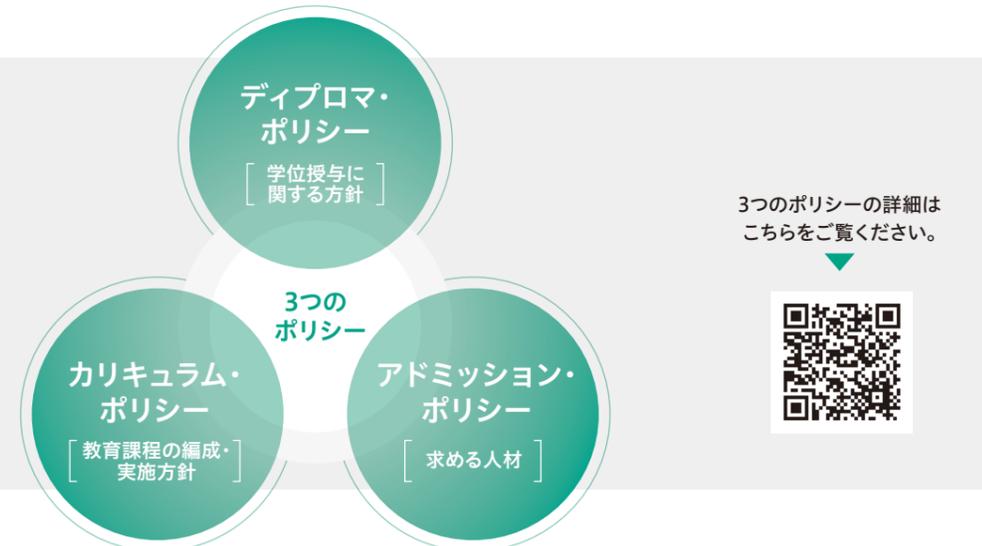
地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

3つのポリシー

- 博士前期課程(修士)
- 博士後期課程(博士)



研究科長 石川 倫子

研究科長 Message

看護の本質を問う

ここ数年の間に、新型コロナウイルスが蔓延した中での看護、そして令和6年能登半島地震における被災地及び避難所での被災者支援を行ってきました。このような変化が激しく、将来の予測が困難な状況においても看護の本質は変わらないと確信しました。そして、人々からも看護の本質を求められました。

団塊の世代が全員後期高齢者になり超高齢社会が本格化する2025年となり、地域包括ケアを加速させるとともに、人口減少が進む2040年に向けて新たな地域医療構想を構築する必要があります。入院、外来、在宅における看護の連携体制や看護のDX化がますます進められ、看護の質向上に寄与する研究も進められるでしょう。その際には、看護の本質は何かを問い、新たな看護を創造してほしいと願っています。

いつの時代を経ても看護の本質は変わらない、看護の本質は新たな看護を創る基盤になっています。ゆえに、看護の本質を基盤とした研究こそが看護の未来、人々の未来を拓くと信じています。